

八田與一のダムを世界遺産に

台湾 広がる署名活動

日本統治下の台湾で、日本人技師の八田與一氏(1886〜1942年)が建設した「烏山頭ダム」と1万6千キロに及ぶ水路「嘉南大圳」を、世界遺産に登録しようという動きが現地で広がり、約7万8千人の署名が集まった。しかし、台湾は国連教育科学文化機関(ユネスコ)に加盟が認められていない。「人類の貴重な遺産なのに政治的な理由で登録できないのは残念だ」。専門家からは、登録に向けた日本の協力を求める声もあがっている。

(西見由章)

八田氏が設計した烏山頭ダムとされる。烏山頭ダムは貯水量約1億1千万トで、当時としてはアジア最大級。台湾大学の甘俊二名誉教授(農業土木)は「粘土と少量のコンクリート」

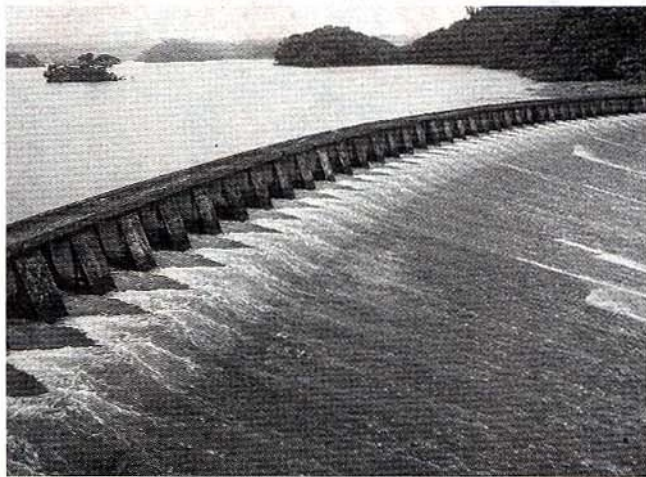
ユネスコ未加盟：日本の協力期待

さらに八田氏は、貴重な水資源を生かすために灌漑地を3つに分け、米とサトウキビ、雑穀の栽培をローテーションする「3年輪作制」を確立したと強調する。

八田與一氏 石川県出身。東京帝国大を卒業後、台湾総督府内務局土木課に就職した。2年間の調査を経て1920年、烏山頭ダムの建設を開始し、10年後に完成した。42年に五島列島付近で乗船が米軍潜水艦に撃沈され死亡。外代樹(とよき)夫人は敗戦後の45年9月、烏山頭ダムに身を投げて後を追った。八田氏は台湾で中学の歴史教科書に登場し、今年5月には功績をたたえる記念公園がダム付近に完成した。



⑤「烏山頭ダムは人類の貴重な遺産」と話す台湾大学の甘俊二名誉教授(台北市)
⑥台湾で世界遺産への登録運動が広がっている烏山頭ダム(台南市)(甘俊二名誉教授提供)



だが、登録実現までには紆余曲折がありそうだ。台湾はユネスコに未加盟のため、世界遺産は現在1カ所も登録されていない。甘教授は「烏山頭ダムは日本がつくった遺産で、当時の文献も日本のものだ」と話し、日本と世界遺産登録に向けた協力作業を進めることに期待を寄せている。